

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：37401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23305

研究課題名（和文）非正規教員の任用実態とその特質に関する研究 常勤・非常勤講師「不足」をめぐる

研究課題名（英文）A Study on the Appointment System for Non-Teaching Staff

研究代表者

原北 祥悟（HARAKITA, Shogo）

崇城大学・総合教育センター・助教

研究者番号：70850402

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、なぜ教員供給は失敗したのかという教員人事行政の観点から、非正規教員の任用実態とそこに見られる特質を明らかにするものである。人事ゆへの秘匿性、非正規ゆへの流動性の高さから全国規模の実態把握は常に困難性を抱えている。そのため、特徴的ないくつかの自治体に焦点を当て、その実態把握に努めてきた。その一つの成果である「公立小・中学校における非正規教員の任用傾向とその特質 助教諭の運用と教職の専門職性をめぐって」が『日本教育経営学会紀要』（2020年、62号）に掲載された。その他、教員供給をめぐる政策的議論の分析も行ってきた。その成果は複数の学会発表、雑誌等にて掲載されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は非正規教員の増加/不足の事態に問題関心を置き、その実態把握や制度的特質を明らかにしてきた。非正規教員の増加は非正規教員自身の身分・待遇の不安定化を招くだけでなく、子どもたちの学習権保障をも不安定にさせる。さらに非正規教員が不足している今日の状況は、子どもたちの学習権を直接的に侵害しているといっても過言ではない。なぜこのような事態が生じたのか批判的に制度・政策分析することは、学習権保障や教員養成・免許制度の在り方の再考を促す学術的な意義を有する。

研究成果の概要（英文）：This study clarifies the reality and characteristics of the appointment of non-regular teachers. It is extremely difficult to grasp the actual status of appointments of non-regular teachers. Therefore, a characteristic case analysis was conducted. I have presented the results of this analysis at the Japan Society for Educational Management. I have also analyzed the policy debate over teacher supply. The results have been presented at several academic conferences and published in journals.

研究分野：教育行政学

キーワード：非正規教員 教員不足 助教諭 専門職性 学習権

### 1. 研究開始当初の背景

今日もなお、公立小・中学校において臨時的任用教員(いわゆる常勤講師)や非常勤講師など、「非正規教員」と呼ばれる教員は高い割合で任用されている。非正規教員の任用をめぐるのは、身分保障・労働条件に関する問題に焦点を当てた研究が少ないながらも断片的に蓄積されてきた。しかしながら、意外にも非正規教員を取り巻く問題を教育(行政)学研究は相対的に看過してきたと言える。ここ数年において、非正規教員の増加というよりもその不足が深刻な問題として顕在化しつつある。その不足を埋める手段として当該校種の免許状を有さない者へ臨時免許状を発行している自治体が確認されている。

非正規教員の増加/不足問題は免許主義の崩壊とともに、子どもの学習権の侵害を惹起する可能性がある。このような現状に鑑みると、規範(べき)論的に非正規教員の増加/不足を批判するのではなく、都道府県・市町村別の任用実態分析を通じて、なぜ教員供給は失敗したのかという教員人事行政の視点に基づく問いを設定する必要があると考え、研究を開始した。

### 2. 研究の目的

本研究は、非正規教員の増加/不足の事態に鑑み、なぜ教員供給は失敗したのかという教員人事行政の観点から、非正規教員の任用実態とそこに見られる特質を明らかにするものである。その際、助教諭(=臨時免許状が発行された者の職位)も非正規教員の一つとして措置し、その任用実態を分析することとした。臨時免許状の発行が標準化・常態化すると、教職の専門職性や「大学における教員養成」といった教員制度原理に対しても大きな影響を与えうる。なぜ教員の供給に失敗したのか人事行政の視点から分析する際、助教諭の存在は重要な鍵概念であるとして研究を展開した。

### 3. 研究の方法

基本的に非正規教員の任用実態は、人事ゆえの秘匿性、非正規ゆえの流動性の高さから全国規模の実態把握は常に困難性を抱えている。そのため、非正規教員の増加や不足が顕在化している自治体(福岡県等)に焦点を当て、各県の『教育職員録』等を手掛かりに実態把握に努めた。また、非正規教員の増加要因は自治体の財政力だけでなく、就学児童生徒の流出入数、特別支援学級数、年度途中における教員異動等にも大きく左右されることに鑑み、各自治体・学校の諸事情まで射程に入れて考察することを心がけた。

加えて、教育政策の次元から非正規教員の増加/不足状況の分析も行った。非正規教員の増加/不足問題と「教職の高度化」政策は相反する関係にある。教職課程の修士レベル化や教員免許更新制度など、教師の量から質向上(高度化)への転換を政策的に推進してきた半面、逼迫する財政力のもと保護者等による教育ニーズ(少数数学級やチームティーチング)に対応するために非正規教員を増やしてきた背景がある。非正規教員の実態分析とともに、教職の高度化をめぐる政策と教員の非正規化を惹起した諸制度改正との関連性を分析することで、教員供給をめぐる議論の政策的枠組みを構築する。

### 4. 研究成果

特徴的な自治体の事例分析を踏まえ、非正規教員の任用実態とそこにみられる特質を明らかにしたものと「公立小・中学校における非正規教員の任用傾向とその特質 助教諭の運用と教職の専門職性をめぐって」を論文としてまとめ、『日本教育経営学会紀要』第62号(2020年)に掲載された。具体的には、福岡県内の公立小・中学校に焦点を当て、非正規教員の任用傾向の把握を通じて、教職の専門職性 とりわけ身分保障及び免許制度の観点からその特質を明らかにした。

また、教師の専門(職)性の観点から非正規教員問題あるいは教員不足問題を捉え、考察したものとして「非正規教員の任用制度と教員不足問題 教師の専門性を手掛かりにして」をまとめ、日本教育制度学会第29回大会(課題別セッション)にて口頭発表を行った。同じく「教員不足をめぐる国際的動向と日本の動向の整理」と題して日本教師教育学会第32回大会(課題研究:諸外国における「教員不足」議論の足場を探る)にて共同口頭発表を行った。教員不足に対する政策的な対策動向を踏まえ、教師の専門性をいかに検討すべきか等、いくつかの論点を提示した。とりわけ、免許制度の緩和等によって参入する外部人材は非正規という任用形態で配置される可能性が高く、教員不足をめぐるのは、量的な不足(未配置)だけでなく、非正規教員の身分保障等の問題とも密接に関連していることを指摘した。

その他、制度・政策動向分析に関する成果の一部を一般・専門雑誌に掲載している。非正規教員の任用実態を把握する統計調査の不在の問題や「非正規教員」が内包する概念的な問題などを踏まえ、非正規教員の任用がいかに拡大してきたのか歴史的な視点から分析を試みた「非正規教

員の任用をめぐる問題と今後の課題 非正規教員の定義の曖昧さと役割の変化を中心に」が『現代思想』(2022年4月号)に掲載されている。非正規教員の量的実態について間接的に把握可能ないくつかの公的統計調査を手掛かりに、非正規教員をどのように定義しているのか等の特徴を分析した。また、「例外」であるはずの非正規教員がなぜ拡大したのか、非正規教員に向けられた役割という視点から試論的に示した。同じく非正規教員に対する役割観の変遷について「1960-1970年代における非正規教員の任用をめぐる制度・政策動向 代替・試補・調整弁を手掛かりに」と題して『人間と教育』第121号(2024年)に掲載された。80年代以降の政策分析は一定程度取り組んできたこともあり、これまでの考察との接続を意識しながら60-70年代の政策分析を実施したものである。代替・試補・調整弁のそれぞれの「都合」から非正規教員の任用が正当化されてきた可能性を指摘した。

コロナ禍を経験したため本研究を遂行するための作業は計画的に取り組めたわけではないものの、年限の延長制度を利用することで時間をかけて丁寧に検討することができた。とはいえ、年度を重ねる度に非正規教員の増加や不足状況は深刻化の一途をたどっている。これまでいくつかの研究成果を提出してきたが、今後も継続的に実態・歴史・法制・政策分析に取り組むことが目下の研究課題となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 原北祥悟	4. 巻 2022年4月号
2. 論文標題 非正規教員の任用をめぐる問題と今後の課題 非正規教員の定義の曖昧さと役割の変化を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 160-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原北祥悟	4. 巻 62
2. 論文標題 公立小・中学校における非正規教員の任用傾向とその特質 助教諭の運用と教職の専門職性をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教育経営学会紀要	6. 最初と最後の頁 62-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原北祥悟	4. 巻 121
2. 論文標題 1960-1970年代における非正規教員の任用をめぐる制度・政策動向 代替・試補・調整弁を手掛かりに	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 人間と教育	6. 最初と最後の頁 52-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐藤仁、原北祥悟
2. 発表標題 教員不足をめぐる国際的動向と日本の動向の整理
3. 学会等名 日本教師教育学会第32回大会(課題研究 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原北祥悟
2. 発表標題 非正規教員の任用制度と教員不足問題 教師の専門性を手掛かりにして
3. 学会等名 日本教育制度学会第29回大会（課題別セッション）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 原北祥悟
2. 発表標題 公立小・中学校における非正規教員の任用をめぐる制度・政策動向とその特質 80-90年代に着目して
3. 学会等名 日本教育法学会2021年度秋季研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原北祥悟
2. 発表標題 日本における多様な教職ルートと教員不足 教員不足の実態と制度構造の整理
3. 学会等名 日本教師教育学会第33回大会（課題研究）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 元兼正浩監修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 花書院	5. 総ページ数 196
3. 書名 教育課程エッセンス 新学習指導要領を読み解くために	

1. 著者名 山崎洋介、杉浦孝雄、原北祥悟、教育科学研究会編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 199
3. 書名 教員不足クライシス：非正規教員のリアルからせまる教育の危機	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------